
遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

クロム

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

JのPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

【Zコード】

Z7795V

【作者名】

クロム

【あらすじ】

この物語はとある少年東富 韶^{あずまみや ひびき}が、神様に頼まれ遊戯王GXの世界に逃げ込んだとされる冥界の悪魔から世界を守るために、東方のキヤラを元にしたオリカを使い、悪魔と戦う物語です。

この物語の主人公はオリカを使い、なおかつ神様の加護でチートドローーであるため、基本的には負けません。それを「理解のうえお読みください。

全ての始まり

初めまして、東宮響といいます。

えへっと、今僕はよく分からぬ所にいます。
さつきまで東方キャラを元とした、遊戯王のオリカを考えている最
中だったのですが、

気が付いたら真っ白な空間のような場所に来ていました。
きょりきょりと周りを見渡していると、翼をはやした天使？が降り
てきました。

「いきなり呼び出してごめんねえ～、急ぎのようだつたからで～！」

「は、はあー…」（なんか、軽々しい話し方だな…）

「で～せつやくなんだけど～、遊戯王GXっていうアニメは知つて
る？」

「はい、確かに今は変わつて遊戯王ゼアルが放送されていますが…」

「知つてるなら話は早いよ。それでねえ～君をその世界に行つて世
界の滅亡を止めてきてほしいんだ～」

「えつ！？で、でも遊戯王はアニメの話じゃ…」

「そつとも言えるし、そつじやないとも言えるね～。ま、平行世界
つて言えば解りやすいかな～」

（平行世界つて…じゃあアニメの出来事が本当にある世界も存在す
るってことなのか…）

「でもなんで世界が滅亡するんですか？それになんで僕が…」

そこまで言つと天使？は響の口元に指を突き立てた。

「そこ…そこなんだよね～！実は冥界に封印したはずの悪魔の何体
かが逃げ出したんだよ～！このままだと悪魔が人間を利用して世界
を滅ぼすかもしれないんだ～。そしてやつと悪魔たちが逃げ出した
場所が分かつたんだ～。で、そこが～」

「遊戯王の世界、ですか？」

「その通りだよ。たぶん悪魔たちは人の心の闇に隠れて力をつけていると思うんだ。なんとかして対策を練ろうとしてた時に見つけたのが君なんだ。見せてもらつたよ。君が考えたカード、もはやチートだよね。」

「はい…まあ…」

それもそのはず、響が考えたカードは東方キャラの能力を元に作っているが、それでも目茶苦茶な効果になつてしまつているのだ。

「そこ」で君に悪魔を退治してほしいんだ。元の世界に戻るつていう選択もあるよ。命の危険もあるからねえ。」

（確かに…遊戯王の世界に行けるのは嬉しいけど、逆に悪魔たちと命がけのデュエルを挑まなきやいけなくなるからな…）

「神様…悪魔は僕がいる世界も襲つてくるんですか？」

「うーん…今はまだ大丈夫だけど、完全に復活したらその可能性もあるかもね～」

それを聞いた響は考えるよつに俯くが決心したかのように頷き、顔をあげた。

「分かりました。悪魔と戦うのは怖いけど、悪魔に怯えながら生活なんて嫌ですから…だったら僕はみんなを守るために戦います！」

「あつりがとう～！じゃあ私が直々にプレゼントを君にあげるよ～」

そう言つた神様？が手を前に伸ばすと、手から眩しい光を放つたと思えば、いつの間にか手には一つのデッキが握られていた。

「はい、ど～ぞ！」

「は、はい…」

デッキを受け取つた響は戸惑いながらもデッキを確認してみる。

（えつ…これって…まさか！？）

響はカードを次々とカードをめくる。そう、そのデッキには、響が考えたカードが組み込まれていたからだ。

「びっくりした？そのデッキには君が考えたオリジナルカードを

入れてあるだよ~」

「い、いいんですか！？」れをもらつても！？」

「もつちろ~ん！悪魔たちがどんな手を使つてい来るかわつかんな
いからね~。それにさつきも言つたけど、私からのプレゼントだか
ら遠慮しなくていいよ~」

「あ…ありがとうございます！~」（うわあ~！まさか僕の考え
たカードが使える日が来るなんて！）

響は神様に礼をすると再びテッキのカードを確認し始めた。よつぽ
ど嬉しかったのである。

「それと、君まだ考えてる途中のカードもあると思ったから、自分
でオリジナルカードを作れる力もプレゼントしたからね~」

「ええーーー！」（とこりこりとまつと戦略を増やせるってことか
ー！）

「満足した~？」

「は、はい！」（とこりこり、もう満足のレベルを超えてますよー~
「よしー~じゃあ君を遊戯王GXの世界に飛ばすよー~！」

神様が手を振り上げると響の体が光に包まれる。

（あ、そうだ！）

「神様！最後に神様の名前を教えてもらえませんかー？」
しかし神様はその質問を聞くと、う~ん、と考え込む。

「それは…大丈~夫！後で分かると思つからー」

「え？ それってどういう…」

「精霊達によるじく~！~じゃあね~！」

「え、精霊達つて、う、うわあーーー！」

そして、響の体は光で完全に包まれた…

全ての始まり（後書き）

遊戯王の小説にはまり、勢いで書いてみました。
更新は遅れるとは思いますが、がんばっていこうと思います！
次回は主人公設定とデッキ構成 + 一人を紹介しようと思います。

キャラ設定+デッキ構成

「は～い、始まりました！キャラ紹介のコーナーでーす！」

「えーと…神様、これは一体？」

「作者によると…最初にこういつ設定をたてたほうがやりやすいんだって～」

「は、はあ、そうなんですか…」

「では早速いつてみよう～！」

東宮 韶（あずまみや ひびき）

年齢 15歳

所属 オシリス・レッド

見た目 ハレメンタルジヨレイドのクーに似ている

性格 お人好しで口調は「僕」といった優しい感じである。

昔、人間関係でトラブルがあり引き込もっていたが、転生をきっかけに自分を変えようと決心する。

少々ビビりではあるが、大切な人のためなら体をはつて守る覚悟はある。

神様の加護のおかげで、身体能力が上昇し、オリカの作成、チートドロー、光の結界、（悪魔のみ）闇のゲームが行えるようになった。

デッキ 幻想郷デッキ

神名 空（かみなそら）

年齢 15歳？

所属 オシリス・レッド

見た目 テイルズオブグレイセスのパスカルに似ている

性格 神様なのが天然で、口調は「私」で、語尾を伸ばし軽々しい口調をする。

なぜか憎めない性格をしており、ムードメーカーのような役割をしている。

しかし、神様としてのプライドは、しつかりともつてあり、悪魔や神を侮辱する者に対しては、普段からじや考えられない口調をする。響とは一応幼馴染みという設定になっているが、空は今の生活に満足らしい。

デッキ 神デッキ

「よーしーじゃあ今度はデッキ構成について…」

「ちょっと待つてください！なんで神様らしき人のプロフィールが…」

「とりあえず、いってみようーー！」

「人の話を無視しないでくださいーー！」

幻想郷デッキ

モンスタークード×26

大妖精 × 3
小悪魔 × 3
博麗 靈夢 × 1
霧雨 魔理沙 × 1
紅 美鈴 × 1
パチュリー・ノーレッジ × 1
十六夜 咲夜 × 1
レミリア・スカーレット × 1
フランドール・スカーレット × 1
アリス・マーガトロイド × 1
魂魄 妖夢 × 1
西行寺 幽々子 × 1
射命丸 文 × 1
犬走 梓 × 1
四季映姫 ヤマザナドウ × 1
小野塚 小町 × 1
因幡 てゐ × 1
鈴仙・優昙華院 因幡 × 1
八意 永琳 × 1
蓬萊山 輝夜 × 1
上白沢 慧音 × 1
藤原 妹紅 × 1
魔法力ード × 13
サイクロン × 2
強欲な壺 × 1
ハリケーン × 1
死者蘇生 × 1

天使の施し × 1

大嵐 × 1

二重召喚 × 1

一族の結束 × 2

苦渋の選択 × 1

幻想郷 × 2

トラップカード × 8

奈落の落とし穴 × 2

くず鉄のかかし × 2

盗賊の七つ道具 × 1

神の宣告 × 1

封魔の呪印 × 1

血の代償 × 1

デッキ枚数 47 枚

「モンスターカードが全てがオリカって、凄いね～。うまく使えるの～これ？」

「…もういいです…はい、僕も最初思つたんですが、やつてみるとうまくできました。

それに、これには書かれていらない東方キャラもいるのでデッキは変えていくつもりですから大丈夫です」

「それにチートドローがあるからね～」

「それは言つちゃ駄目ですよ。今回はオリカの説明はしないんですねか？」

「うん、説明は本編でするからね～。後、私のデッキも」

「名前だけでやばそうな感じですけどね…」

「では、今回はここまでにするよ～ば～いば～い！」

「ではみなさん、次回会いましょう。」

入学試験！悲惨なクロノス

海馬ランド、今日は「」でデュエル・アカデミアへ入学するための実技試験が行われる。

様々な試験生がデュエルしている。

響はみんなのデュエルを見ながら、自分の受験番号が呼ばれるのを緊張しながら待っていた。

「うう、緊張するな…」

響がこの世界に跳ばされた時、それは入学試験の一週間前だった。この世界の響の家族は、前の世界と全く変わっていなかつた。変わつたところといえば、皆デュエリストだということである。試験前といふこととデッキの調整ということでデュエルしてみたのだが、圧勝してしまい、家族にカードについて質問攻めされた。カードについては何とか誤魔化せたが、響自信もカードの強さと、引きの良さ驚いたのだ。

「つして試験までの日を過ごしていたのだが…」

（響様、大丈夫ですか？緊張しているようですが…）

（少し緊張してるけど、大丈夫だよ妖夢）

（主様、あなたは今私達の主なのです。しつかりしてください）

（う、うん。わかったよ…妖夢）

デッキ調整の数日の間に、響は精霊が見えるようになった。

響がデッキの中で良く使つかード、「魂魄 妖夢」（こんぱく ようむ）と

「十六夜 咲夜」（いざよこ さくや）である。

今はまだこの二人しか精霊化していないが、これから増えていくかもしれない。

(それにしても、やりがいが無さそうな人ばかりですね。少々ガッカリです…)

(ここにいるほとんどが響様と同じ入学生とは思えませんね)
(それは入学生達が弱いんじゃなくて、君達が強すぎるからだと思うけど…)

「ぜえー、ぜえー…何とか間に合つたー！」

響が二人の発言に呆れていると、伝説のデュエリスト、遊城 十代が駆け込んできた。

(うわあ、本物の十代さんだ！)

「君、大丈夫？水あるけど」

「あ、ああ！サンキュー！…「うぐ…うぐ…ふはー！ありがとな、俺、

110番の遊城 十代、お前は？」

「僕、111番の東宮 韶。響って呼んでよ」

「ああ！俺のこと、十代って呼んでくれ！」

『受験番号110番、デュエル場に上がつてください』

「おーさつそくだな。じゃあ、行つてくるぜー。」

「うん。頑張れ！十代君！」

(二人とも、このデュエルはしっかりと見ておいた方がいいよ)
(響様がそこまで言うとば、相当な実力を持つているということですね)

(なら、その実力…しっかりと見せせてもらいます)

「スカイスクレイパーの効果！

自分のモンスターが自分より攻撃力の高いモンスターを攻撃した時、
自分のE-HEROの攻撃力を1000Pアップする！
くらえ！スカイスクレイパー シュート！！

更に、E・HEROフレイム・ウイングマンが相手モンスターを破壊した時、相手の攻撃力分のダメージを「える！」

「マンマミー！私の古代の機械巨人がーー！」

結果はアニメ通り十代が勝つた。やはりあの引きの良さは凄い。

（まさかあの状態で逆転するとは…）

（あの先生、他の試験管と違つて本気でしたのに…）

（ね、言つたでしょ）

一人も流石にあの状態で十代が勝つとは思わなかつたようだ。

「お疲れ、凄いね君のデュエル！」

「へへー！まあな！」

『受験番号111番、デュエル場に上がつてください』

「おー、今度はお前の番だな。頑張れよー響！」

「う、うん！」

（有り得ないノーネ。偶然なノーネ。

私があんなドロップアウトボーグに負けるナーンテ）

「受験番号111番、よろしくお願ひしますー！」

（気晴らしにて、今度こそこのドロップアウトボーグを潰してやる）

（ネ）

「今からデュエルを始めるノーネ！構えるノーネ！」

「わ、分かりました！」

双方ともデュエルディスクを構える。

「「デュエルーー！」」

クロノス LP4000

「先攻は譲るノーネ」

「はい！僕のターン、ドロー！」

（…いつも思うけど、凄いなこの手札…）

これは手札事故と言うわけではない。逆に良すぎるのである。
響の手札にはもうクロノスを倒す手立てができるのである。

（主様、の方に対しては手加減はいりません）

（咲夜さんの言う通りです。速攻で片付けましょう…）

（ど、どうしたの…二人とも？）

（あの者は響様をバカにするような目で見てます…）

（我等が主にそのような行為をするなど、許せません！）

主の無礼は幻想郷の無礼。誇りを傷つけられ、二人はかなりキレているのである。

（…分かった、じゃあすぐに終わらせるよ…）

（（はい！！）

「クロノス先生、このデュエル…あなたは攻撃できずに負けます…」

「何いつてんだ、アイツ…」「クロノス先生相手に何いつてんだ…」
響の言葉に周りの生徒達がざわめく。

「何を言つてるノーネ！さっさとカードを場に出すノーネ…」

（ドロップアウトボーグ」ときが、この私が攻撃できずに負ける…？
許さないノーネ！）

「僕は手札から、フィールド魔法、幻想郷を発動！

更に手札から、十六夜咲夜を特殊召喚します」

星 4 幻想族

攻撃力 1700 守備力 1500

周りが緑に囲まれた田舎町のよつたな場所に変わり、そこにメイド服を着た銀髪の女性が現れる。

「幻想郷の効果発動！」

このカードが場にある時、フィールドの幻想族の攻撃力・守備力を600ポイントアップすることができます。

更に、幻想郷が場にある時、幻想族モンスターが召喚、破壊された時、このカードに幻想カウンターを1つのせることができます。十六夜咲夜は幻想族モンスター。よつて幻想カウンターを1つのせます。

「僕はこれでターンエンドです」

響 LP4000

場 十六夜 咲夜 攻撃力 2300 守備力 2100

フィールド魔 幻想郷（カウンター1）

手札 4枚

「なんだ、あのカード」「見たことないぞ」
周りが響のカードに驚き、またざわめく
(見たことないカードなノーネ)

しかし、あんな小娘に何ができるというノーネ)

「私のターン、ドロー！私は手札から「ストップ！！」な、なん
ノーネ？」

「十六夜 咲夜の効果発動！

このカードは毎ターン、相手のドローフェイズ、メインフェイズ1、
バトルフェイズ、メインフェイズ2の中から1つ選び、選んだフェ
イズをスキップすることができます。

僕はメインフェイズ1を選択します

「な、なんでストート！？」

メインフェイズ1がスキップされ、場にモンスターがないのでメ
インフェイズ2に移行する。

「くっ、ならば私は、手札から魔法カード、手札抹殺を発動！
互いのプレイヤーは手札を捨て、デッキから捨てた枚数だけカード
をドローするノーネ！」

私は5枚捨て、5枚ドローするノーネ！」

「僕は4枚捨て、4枚ドローします。」

「更に手札から、魔法カード使者蘇生を発動！」

墓地の、古代の歯車を特殊召喚！更に、古代の歯車が自分の場にあ
るとき、もう一枚の古代の歯車を特殊召喚するノーネ。そして、2
体の古代の歯車を生け贋にして古代の機械巨人を召喚するノーネ！
鉄でできた、大きな人型の機械が現れる。

古代の機械巨人 地属性
アンティーケ・ギアゴーレム

星 8 機械族

攻撃力 3000 守備力 3000

「墓地に捨てた大妖精の効果発動！このカードが墓地にお送られた
とき、デッキから、大妖精を特殊召喚します。幻想郷の効果！幻想
族を召喚したことで、幻想カウンターを1つのせます。

更に大妖精の攻撃力・守備力を600ポイントアップ！
羽がはえた小さな妖精が現れる。

大妖精 風属性

星 3 幻想族

攻撃力 1200 守備力 1200

1800 1800

「カードを1枚伏せてターンエンドなノーネ」

クロノス LP 4000

場 古代の機械巨人 攻撃力3000 守備力3000

伏せカード1枚

手札 1枚

「これでも、まだ私に勝つというノーネ？」

「ええ、その通りです先生！僕のターン、ドロー！」

僕は手札から、魂魄 妖夢を召喚します

場に、刀を持ち、体の周りに霊のような物体がある銀髪の女性が現れる。

魂魄 妖夢 閻属性

星 5 幻想族

攻撃力 2400 守備力 1500

「生け贋無しで召喚でスタート！？」

「フィールド魔法、幻想郷の効果！幻想族モンスターを召喚する際、星を1つ下げるることができます！」

更に妖夢の攻撃力・守備力を600ポイントアップします。

更に僕は手札から使者蘇生を発動！墓地の大妖精を特殊召喚します！更に、魔法力カード、二重召喚を発動！このターン、僕はもう一度通常召喚できます。

手札の大妖精を召喚！

幻想郷の効果！三体の幻想族モンスターを召喚したことで、幻想力ウンターを3つのせます。

更に、攻撃力・守備力を600ポイントアップ！

そして妖夢の効果発動！場の自分のモンスターを生け贋にすることで、生け贋にしたモンスターの半分の攻撃力を妖夢の攻撃力に加えることができます！僕は大妖精三体を生け贋にします！

幻想力ウンターを5までしかのせられないでの、幻想郷の効果は発動しません。

攻撃力を2700ポイントアップ！よつて妖夢の攻撃力は5700になります！

(ヤバいノーネ…しかし、私には聖なるバリア・ミラーフォースがあるノーネ。)

速く攻撃するノーネ

(あの余裕…たぶんあれは攻撃反応型の罠ですね。なら…)

「僕は幻想郷の効果発動！

カウンターを全て取り除く」とことで、フィールドの場のカードを一枚破壊することができます！

僕は先生の伏せカードを破壊します！

「な、なんでストート！」

クロノスの聖なるバリア・ミラーフォースが破壊される。

「バトル！魂魄 妖夢で古代の機械巨人を攻撃！迷津慈航斬！」

古代の機械巨人が妖夢の剣によつて切り刻まれ、破壊される。

「があー！」

クロノス LP4000 1300

「止めです！十六夜 咲夜で先生にダイレクトアタック！エンドレスナイフ！」

「……（本当に…攻撃できなかつたノーネ…）

クロノス LP1300 0

「ふう…緊張した」

「すげえな、お前！あのクロノス先生をあつさり倒すなんて！」

「あれは先攻が取れたからだよ。

後攻だつだらどうなつてたか分からなかつたし」

「けど君は、あのクロノス先生を宣言道理、攻撃させずに勝つんだよ。

それだけでも凄いよ」

G Xのエアー・マンニと三沢 大地が現れる。

「俺は受験番号1番、三沢 大地。君達のデュエル、見させて貰つたよ。

どちらも興味深いデュエルだった。まさかクロノス先生を倒すとはね」

「へへ！俺は遊城 十代、よろしくなー！」

「僕は東宮 韶、よろしく」

「よろしく。君達とデュエルするのが楽しみだ」

『受験番号1-12番、デュエル場に上がつてください』

「はーい！」

「あれ？この声どこかで…」

三沢達と握手していた響は声がする方を向いてみると…
(え、えええ！？あ、あれって神様！？
い、いや別人の可能性も…)

てくてくて…キヨロ、ぶい！（^ - ^）▼

(ほ、本物だああー！ー)

(ま、まさーか、私がまたドロップアウトボーリに負けるなソーテ
…)

「受験番号1-12番、お願ひします！」
(ま、また気にくわないやつが出てきたノーネ！
もう怒ったノーネ、本氣でいくノーネー！)
「デュエルを開始するノーネ！構えるノーネ…」

「「デュエルー！」」

? ? ? LP4000

V S

「私の先攻、ドロー！手札から、魔法カード、融合を発動！

クロノス LP4000

手札の、古代の機械巨人を3体墓地におくり、古代の機械究極巨人を召喚するノーネ！」

古代の機械究極巨人

アンティーグ・ギアルティメットゴーレム

星 10 地属性 機械族・融合

攻撃力 4400 守備力 3400

「いきなりだな、クロノス先生」

「多分、入学生に2連敗したせいでキレたんだろう」

（大人気ない人ね…）

（全くです）

（でも神様、どんなデッキ使うんだろう？）

「カードを1枚伏せて、ターンエンドなノーネ！」

クロノス LP 4000

場 古代の機械究極巨人 攻撃力 4400 守備力 3400

伏せカード 1枚

手札 1枚

「じゃあいつくよー！私のターン、ドロー！」

先生！私、1ターンキルしちゃいます！」

「お、おい、また勝ち宣言してやがるぜ」

「今年の受験者はどーなつてんだ…」

さきほど影響のよつた宣言に、周りがざわめく

「攻撃力4400のカードがあるので、このターンで決めるだと…？」

「おつもしれー！アイツどんなカードを使うんだ！？」

（一体、何を考えてるんだ？神様…）

（バカな、この状況でこの私を倒すナーンテ、ハッタリに決まっているノーネ）

「私は手札から、魔法カード、天使の施しを発動します。デッキから3枚ドローして～2枚を捨てます。

3枚ドロー！…手札から2枚捨てます。

墓地に送った2枚のダンディライオンの効果発動～！

このカードが墓地に送られた時～綿毛トーケンを2体召喚できます。

よつて、4体の綿毛トーケンを守備表示で特殊召喚～！

「一気にモンスターを4体も！？」

「これなら上級モンスターを一気に召喚出来るな

「確かに…けど一体何を出すんだろう？？」

「更に、俊足のギラザウルスを特殊召喚～！

このカードは召喚を特殊召喚扱いにすることが出来ます。

その場合、相手は墓地からモンスターを特殊召喚することが出来ますよ～！」

「古代の機械巨人は特殊召喚出来ないノーネ。

だから召喚しないノーネ。

「よし、じゃあいっくよ～！私は綿毛トークン3体を生け贋にして
邪神ドレッド・ルートを召喚～！！」

（ええええ～！？邪神！？ていうことは…）

邪神ドレッド・ルート 閻属性

星 10 悪魔族

攻撃力4000 守備力4000

「ですーがそのモンスターでは私の古代の機械究極巨人には届かないノーネ」

「だから、ドレッド・ルートの効果発動！」

このカードがフィールド場にいるかぎり、このモンスター以外のカードの攻撃力・守備力が半減します！」

「なんでスート！？」

（ですが、私には聖なるバリア・ミラーフォースがあるノーネ。
これで今度こそ返り討ちにするノーネ）

「私はさつき、天使の施しで引いた、ワタポンを特殊召喚します。
そして、手札から、魔法力カード、二重召喚を発動～！」

このターン、もう一度通常召喚することが出来ます！」

（やつぱり…あのバッキ、神デッキだ…）

「私は、ワタポン、俊足のギラザウルス、綿毛トークンを生け贋に
（邪神アバターを召喚～！！」

邪神アバター 閻属性

星 10 悪魔族

攻撃力 ??? 守備力?????

「邪神アバターの効果発動！」

このカードの攻撃力・守備力はフィールド場の1番攻撃力の大きいモンスターの数値+100になります。

よつて、邪神アバターの攻撃力・守備力は4100になります。
バトル！邪神アバターで古代の機械究極巨人を攻撃！！

（かかつたノーネ！）

「私は罠カード、聖なるバリア・ミラーフォースを「無駄です！
邪神アバターが召喚に成功した時、相手ターンから数えて2ターン
の間、魔法・罠カードを発動できません。」

そ、そんなナーノー…」

「バトル続行！古代の機械究極巨人を破壊します！」

クロノス LP4000 2100

「とつ止め！邪神ドレッド・ルートでダイレクトアタック！
ダークネス・ブレイバ～！！」

「い、この私が…二度だけでなく三度までも…」

クロノス LP2100 0

（ビックリした…神様も来てるなんて…でもなんでだろ？）

こうしてクロノスは真っ白に燃え尽きるも、3人対する復讐の炎を
燃え上げていた…

入学試験ー悲惨なクロノス（後書き）

クロムです。

オリカについての詳しい説明はカード説明の部を作った時に書いつ
と 思 い ま す。

デュエルアカデミア到着！

「デュエルアカデミアは3つの寮にわけられる。
中等部からの成績優秀者で占められるのが、オベリスク・ブルー。
中等部と高等部の成績優秀者で占められるのが、ラー・イエロー。
そして、成績が悪い者で占められるのが、オシリス・レッドである。
響と十代は、クロノスの陰謀でオシリス・レッドに配属されたこと
となつたのだが…」

「と、いう訳で、同室になつた神名 空で、す！ よろしく！」

「……」

響達の部屋は十代達の隣。一緒に住まうことになつたのは、響をこの世界に跳ばした張本人、神様こと神名 空である。

(主様、どうしたのですか？)

「この人、神様なんだ…」

(え！？ この方が！？)

「そ、だよ、お二人さん？」

(見えているのですが、私たちが！？)

「私、神様だもんね」

二人は空が神だという事実に衝撃を受けている。空の性格を考えてそう思えないからである。

「ところで、なんで神様… いえ、空さんがこの世界に来ているんですか？」

「それがね～。他の神達が人間だけじゃ危険じゃないのかつて意見が出でさ～、私がこの世界に派遣されることになつたんだよね～」
(この人に他にも神様ついているんだ…)

「空さんはそれでよかつたんですね？」

「うん！ 一度、人間世界に来てみたかったんだよね～！」

(「この方が本当に神なのですか？少し信じかねますが…）

「幻想郷の神もこんな感じじゃないの？」

(…確かに…否定はできませんが…)

「ね～。私が神ってそんなに以外？」

「（（はい。もちろんです））」

「これでもしっかりと神としての誇りはあるんだけどな～…」

しばらく談笑していると、十代と丸藤 翔が部屋に入ってきた。

「響！お前もオシリス・レッドだったのか。これからよろしくな～！」

「うん！」ちらりこね。隣にいる君は？」

「ぼ、僕、丸藤 翔つていいます。…あれ！？」

後ろにいる女の子つて、クロノス先生を1ターンで倒した受験番号

112番！？

「ま～ね～。私、神名 空 よろしく～！」

「ああ！俺、遊城 十代、よろしくな～凄かつたぜ、お前のデュエル！」

邪神のカード、カツコ良かつたぜ！」

「ありがと～！十代君も凄かつたね～。まさかあの状態で勝つちゃうなんて～」

「三人とも凄いのになんでオシリス・レッドなんだろ？…

それに空さんは女の子だから普通はブルー寮に配属されるのに…」

通常、女子はブルー寮に配属される。

なので、女子である空が、レッド寮に配属されるのは異例の出来事なのである。

「でも俺は赤が好きだぜ！燃える炎、熱い血潮、俺にピッタシだ！」

「私も実際どこでもよかつたしね～」

「僕も大きな建物の中で過ごすより、いつみづアパートみたいな所、好きだから別にいいよ」

凄い人ほど変人とはこのことである。

「羨ましいよ…みんな僕より強いし」

「そんなことないよ。君のデュエル見てたけど不意を突かれると焦っちゃうところがあるけど、カードの組み合わせや、対処の仕方もいいし、落ち着いてデュエルしていけばきっと強くなれるよ」

「そう、かな…うん、わかつたよ。ありがとつー響君ー。」

実際、翔は強い。

この頃はまだ自信の無く、落ち着きがないが、素質は十分にある。
さすがはカイザーの弟だといえる。

「そろそろ歓迎会の時間だね」

「そうだな。速く行こうぜー。」

「な、なんじゃこりゃーーー」「他の寮の料理はもっと豪華だつたぜーーー！」

オシリス・レッドの料理は、ご飯とメザシと味噌汁。
他の一つの料理はとても豪華で、こことはまさに天と地の差である。
そこへ奥から、一人の男性が現れる。

「寮長の大徳寺だニャー。授業では鍊金術を担当している。ようしくこいや！」

おかげは自由だからどんどん食べるこいやー

だが、あまりの他の寮との豪華との違いとオシリス・レッドだという不安のせいで、

みんなの喉に料理は通りそうもない。3人を除いては…

「うめえな！これ！先生おかげー！」

「お婆ちゃんの味を思い出すなあ…先生僕もー。」

「この二つ料理も悪くないなー。私ももう一杯ー！」

「3人とも、よく食べるっすね…」

「元気がいいのはよいことだニャー。すぐに用意するニャー。」

もう一度言つたが、やはり凄い奴ほど変だといつのはまさしく、ここにいたのである。

「で、空さん。悪魔の様子つてわかりますか？」

「うーん…調べてはいるんだけど、まだ収穫はないね。」
歓迎会の後、一人は部屋に戻り、悪魔について話していた。

(空様。悪魔はどのような所に隠れるのですか?)

(可能性が高いのは、人の心の隙間かな?)?

悪魔が力をつけるにはもってこいだからね。後は古ぼけた場所とかかな~」

(特にこの場所は、心の闇が溜まりやすそうですね。先日の先生といい…)

「やつかいだなあ…こりや…」

コンコン ガチャ

十代と翔が部屋に入ってきた。

「どうしたの二人とも、こんな遅くに?」

「それが、オベリスク・ブルーの万丈目君から、アニキにアンティルールのデュエルを申し込んできただんだ」

「あれ? アンティルールって禁止じゃないの?」

(全く、ここにはそういう人しかいないんでしょうか?)

(そういう人間って、潰したくなってしまいますわね…)

(二人とも、落ち着いて。ホントに潰したらダメだよ)

「十代は万丈目君とデュエルするの?」

「ああ! どんな条件だろ? と、挑戦されたら受けるのが漢だろ!」

「わかった。僕も行くよ。まだ時間はある?」

「後、1時間はあるよ」

(そのぐらいあれば少し話ができるな)

「翔君。部屋に懐中電灯あるかな? 必要なんだけど

「確かカバンの中についたと思うけど……わかつた、探していくよー。翔は部屋をすぐさま部屋を出て行つた。

「十代君、君に話があるんだ。君、精霊が見えるだろ？？」

「え！？じゃあ響も見えてるのか！？」

「うん。二人とも、出てきていいよ」

カードが光だし、妖夢と咲夜が現れる。

（十代様初めまして。私は、魂魄 妖夢）

（私は、十六夜 咲夜といいます。お見知りおきを）

「あんた達は確か、クロノス先生を倒したカード！…すっげえ！相棒、お前もあいさつしてやれ！」

（クリクリ～！）

十代のカードが光だし、ハネクリボーが出で来る。

（…あの…少し触つてもよろしいでしょうか？）

「え、別にいいけど」

（咲夜さん、私も！）

二人がハネクリボーをもふもふと触る。

微笑ましい光景だが、ハネクリボーは困つているようだつた。

「まさか、他の精霊がいるなんて思わなかつたぜ！空も精霊が見えるのか？」

「いいやー。私は精霊が見えるだけだよー。私も自分の精霊がほしいなー！」

「なーに、すぐ見つかるさ！なんか俺達つて共通点が多いよな！」

「はは、そうだね。そうだ十代君！万丈田君とのデュエルの対策なんだけど…」

「よく来たな110番。

おや、後ろにいるのはクロノス先生を倒した111番と112番じやないか。

「一体何の用だ？」

デュエルアカデミア、デュエル場。

そこに万丈目とその取り巻き二人がいた。

「オベリスク・ブルーの実力がどれほどのものか、見に来ただけです」

「ふん、まあいい。遊城 十代！見せてもらおうぜ？」

クロノス教諭を倒したのがまぐれか実力か

「ああ！望むところだぜ！」

「「デュエル」」

展開はアニメとは異なるものとなつた。

万丈目が融合に対し、何か対策をしていんじやないかを十代と話し合い、最初は融合を使わず、通常モンスターで攻めることにした。これにより流れが十代へ傾き、そして見事十代はサイクロンを引きあて、最初に万丈目が伏せたヘル・ポリマーを破壊することに成功。これには、さすがの万丈目も驚愕した。

融合が使えるようになつたことで、フレイムウイングマンを召喚し一気に止めをさした。

その後、ガードマンが近づいてきたので、皆すぐさま逃げた。

「危なかつたぜ。最初に融合を使ってたらどうなつてたか…」

「でも、アニキ凄いよ！オベリスク・ブルーの生徒に勝っちゃうなんて！」

「翔君も、がんばれば勝てるようになるよ

「え！？いや、僕はまだまだだよ

「いや、努力すればいつか俺を倒す日が来るかもしれないぜ？」

「アニキ…うん！僕、がんばるよ…」

「うんうん、努力は怠るなつていうしね～」

「　「　「お前が言つなよ……！」」

そんな会話をしながら、4人はレッド寮に帰つて行つた。

（くそ！遊城十代：この借りはいつか返す！）

万丈目は十代のリベンジへ向けて、燃えていた。

デュエルアカデミア到着！（後書き）

クロムです。

十代のデュエルは省略する方針ですので、
ご了承ください。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7795v/>

遊戯王GX 幻想郷の主！？と悪魔との戦い

2011年10月8日22時16分発行